

地域との連携による田植え体験

野矢小学校では学級毎に様々な野菜を育てたり食べたり、花を育てています。しかし、米作りは行っていません。各家庭の多くが米作りを行っています。しかし、子どもたちと話していると、米作りに関わっている子どもたちはあまりいないようです。また、昨年、縄ないも取り組んだので、米を収穫して、餅つきをしたり、ワラで縄ないをおこなったりすると年間を通した活動になり、食育も充実するのではないかと考えていました。そこで昨年度から、野矢校区活性化協議会の方々と米づくり体験はできないか相談していました。

また、今年度から親子山村留学制度モデル校になったことで、もし、山村留学の希望者がいたら、野矢校区の多くの家庭で行われている米作りは貴重な体験になると思っていました。

4月にさっそく、佐藤会長からプール横の田んぼが借りられそうだった話があったので、教育委員会にお願いして水の手配を行いました。それから田植えの準備や苗の手配をしていただき、6月14日に全校児童で田植えの体験をしました。野矢校区活性化協議会の方6名にお手伝いをしていただきました。

最初は泥田に入るのも苦手な子どももいましたが、いざ、田植えが進んでくると全員、真剣に植えるようになりました。中には、最初から自分の持ち場に黙々と植える子どももいました。2時間ぐらいかかるかなと予想していましたが、約70分で植え終わることができました。

学校教育にタブレットが導入され、多くの情報が教室にいても手に入るようになりました。私もそうですが、インターネットで調べると、何となくできそうな気がします。しかし、田んぼの泥の感触や水の深さ、どのくらいの深さで植えるのか実際に体験しないとわかりません。また、そこにいる動植物も実際に田んぼに行かないとわかりません。学校教育で今大切なことは体験学習だと思います。タブレットで得た情報も、体験することで活かせるようになると思います。

そんな重要な体験活動をおこなうにしても学校だけではできません。保護者や地域の協力がないとできないことが多くあります。これからも保護者や地域の方々の力を借りて、充実した教育になるようにしたいと思います。田植えにご支援をいただきました野矢校区活性化協議会の皆さん、本当にありがとうございました。

九重町立野矢小学校

野矢っこだより

令和6年度

6月21日

第4号

校長 小幡英二



野矢小学校
ホームページ

